

水元公園：

灌漑用水としての小合溜を活かし東京23区随一の親水公園に



2021年2月（東京都葛飾区・水元公園）

◆灌漑用水としての小合溜(こあいだめ)

江戸の初期には古利根川の河川敷でしたが、旧小合村が新田開発の耕作地としました。1729年に遊水地兼灌漑用水路として小合溜が開削されました。水の元の意味である「水元」が地名の由来です。

◆垂直な幹が心地よい緊張を生む

1968年、明治百年記念公園に指定されて、水辺空間を活かした公園としてのコンセプトが明確になり、記念広場としての「メタセコイヤの森」が生まれました。葉の茂る季節は大抵薄暗いですが、冬場に限って葉が落ちるため、光がいっぱい降り注ぐ空間に生まれ変わります。

岡村幸二（JRRN会員）